

イスラム教を冒瀆し、新幹線の安全は大丈夫か！

会社は、大阪第二運輸所の所内誌『^{わだち}轍』3月号で、「セキュリティ特集」として異例とも言える総務科、運転科、指導科、営業科の立場からそれぞれ「テロ」「テロリスト」について掲載しています。

その内容は、関西支社管理部・田口担当部長が「北海道洞爺湖サミットをめぐる国際テロ情勢」についての講義の内容を6ページにわたって細かく書いています。

セキュリティ対策としてますが、特集を組んでいるのは何故か大二運だけです。

特に、その中でも川嶋良典副所長が書いた総務科の項では、「国際テロ情勢」、「イスラム過激派って何」「イスラム教徒の概略」「オサマ・ビン・ラディン」「テロとは」と展開され、あたかもイスラム教＝テロリストと規定しています。まさにイスラム教を冒瀆する内容であり、こんな傲慢・無責任な表現をする管理者は世間では通用しないのではないのでしょうか！

また、八木利広助役が書いた運転科の項では、「携帯品の紛失がテロを招く」と誇張した表現をしています。さらに「アメリカでの貿易センタービルへの飛行機による突入(9・11)」をテロと規定しオサマ・ビン・ラディンを首謀者としています。

現在、謀略説を裏付ける証拠も多く語られテロと規定するにはあまりに早計ではないのでしょうか！

2003年、アメリカ・ブッシュ大統領は、大量破壊兵器を隠し持っているとしてイラク・フセイン大統領への攻撃を強行しました。しかし、後にパウエル元国務長官は、この武力攻撃が間違いであったという事を認める発言をしました。

石油利権を目的とした戦争とも言われ、アメリカ軍の戦死者も(現在まで)4000人を越えています。

私たちは、戦争にもテロにも反対しています。「備え」に水を差すつもりはありませんが、一企業の管理者の無責任な表現は、逆に不安や恐怖を増大させる結果になるだけではないのでしょうか。このような文章を書くことはかえって新幹線が「テロ行為」の標的とされる恐れがあります。また、イスラム教の信者の方がこの文章を読んだら怒りを覚えるはずです。

発行責任者である辻村 厚所長は、乗務員と旅客の安全に責任が持てるのでしょうか。